



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2007 / 1 / 22(火)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 14

本来ジュニア連盟の強化委員会便りに載せるべきブログを、もっと多くの方がアクセスする道バ協のTACTICSに掲載しましたので多くの方に読んでいただきたいと思います。今回のイベントは多くの指導者の皆さんに刺激を与えたことは間違いありません。トップエンデバーU15の女子担当ヘッドコーチ鷺野先生のチームがゲームをしているとき北海道の指導者が20名以上ベンチの後ろで鷺野先生の采配振りを勉強していました。形を変えたコーチクリニックだったといえます。鷺野先生は一つも迷惑そうな顔をせず逆に「この中から5人でもいいからトップを争う人が出てくれたらいいですね。」と話されていました。

北海道ジュニア連盟 強化委員会から 北海道カップ総評

〔女子 総評〕

北海道ジュニア連盟 強化委員長 大浦 浩 (江別第二中学校)

全国各地で〇〇カップなる強化大会を行っている。これをなんとか北海道でできないものかと思案した結果、今回の第1回北海道カップ開催にこぎ着けた。これを機会にぜひ、北海道のレベルも上げたいものだと思われ、役員のみならず、各中学校チームの指導者は感じているに違いない。

さて、北海道の女子のレベルはというと、全中において、なんとか予選リーグは突破するものの、決勝トーナメントでは勝ち上がれず、最終日に残るベスト4が遠い状態である。そこで、今回は全中で優勝を争うであろう、そのベスト4に入るレベルの3チームを招待した。結果は北海道チームが招待チームに1勝もできずに惨敗した。つまり北海道が6チーム中4～6位ということである。現時点ではそれが実力かもしれない。

では、何が違うのか、強化委員として、2日間女子の試合を観て感じたことを書いてみる。

3者3様とは、まさにこの3チームかと思うほど、招待チームはチームカラーが鮮明に出ていた。東京成徳のシュート力、藤浪の組織力、コザの男子並みの1 on 1など、その地域、その指導者のカラーがよく出ているチームである。中心選手が自分の役割をきちんと理解し、自分が生きる場面、味方を活かす場面をよく把握している。つまりバスケットボールをよく理解しているということか。北海道の選手はどうしてそこでそのプレーなのかという場面によく遭遇する。しかし、今回の3チームは社会人が行っているのでは？と思わせるようなプレーを連発していた。

Defにおいては、様々なDefを駆使するのは道内のチームも同じではあるが、特別当たりが強いというよりは、そのポジション取り、相手との間合い、相手プレーの読みなどがとても良い。まさしくバスケットらしい。したがって道内のチームは簡単に攻めるこ

とができないし、守れば切り刻まれてしまう。

Offでは、相手Defの裏をしっかりと突き、そこにタイミング良くパスが通る。スクリーンプレーが絶え間なく続き、相手がちょっとでも対応が遅れるとそこを突く。また、インサイド選手がとても強い。大きい選手がしっかりとしたプレーをする。北海道の長年の課題であるが、インサイドにいい選手が少ない。

北海道も課題は山積みではあるが、熱い指導者は多い。今大会を機に、選手・指導者、さらにそれを取り巻く方々に良い刺激になったことは間違いない。全中・ベスト4を目指し、全国で通用するチームが続出してほしいものである。

〔男子 総評〕

北海道ジュニア連盟 強化委員 鈴谷 勉 (札幌真駒内曙中学校)

今回、道外から参加したチームは丸亀東中、本丸中、習志野第五中である。本丸中は2年連続、全中で3位入賞、丸亀東中は下級生主体ながら全中出場、習志野第五中は今年度、全中こそ出場していないが、激戦区の関東大会に毎年出場しているチームである。いずれのチームも来年度、新潟全中で優勝を争う強豪チームである。このような本州の強豪チームを北海道に招き、大会を開催するというのは、我々の長年の夢であり、今回その夢を実現させてくれた各チームには、感謝を申し上げたい。

3チームとも、それぞれ持ち味があり、大変よく鍛えられたチームであったが、北海道のチームと比較して、気がついたことをいくつか挙げてみたい。

まず、第1に、1on1のDef力である。北海道の選手は結構淡泊であるのに対し、今回の3チームは大変粘り強いことに加え、オンボールの守り方の間合いが大変うまい。したがって、ドライブできれいに抜かれるという場面が少なく、ヘルプしなくても1on1である程度守れてしまうという印象があった。

第2に、アウトサイドのシュート力。本丸中の驚異的なシュート力をはじめ、特に勝負のかかった「ここぞ」という場面でのアウトサイドのシュート力には、目を見張るものがあった。

第3に、リバウンドボールへの執着心。毎年のように全中に出場しているので、リバウンドの重要さが骨身にしみているのだろう。隙があればどこからでもリバウンドにからんでくるというどん欲さが目についた。

北海道も2年連続して東海第四中が入賞を果たすなど、近年レベルが向上してきているが、まだ、優勝は果たしていない。このような機会を利用し、各チームともさらに切磋琢磨して力を付け、早く北海道から優勝するチームが出てくることを願いたい。

HBA (北海道バスケットボール協会) 指導者育成専門委員会